

ひょうごの遺跡

昭和60年 9月30日発行
兵庫県教育委員会
社会教育・文化財課
兵庫県埋蔵文化財調査事務所
〒652 神戸市兵庫区荒田町
2丁目1番5号
Tel(078)531-7011(代)
〔題字 教育長 井野辰男書〕

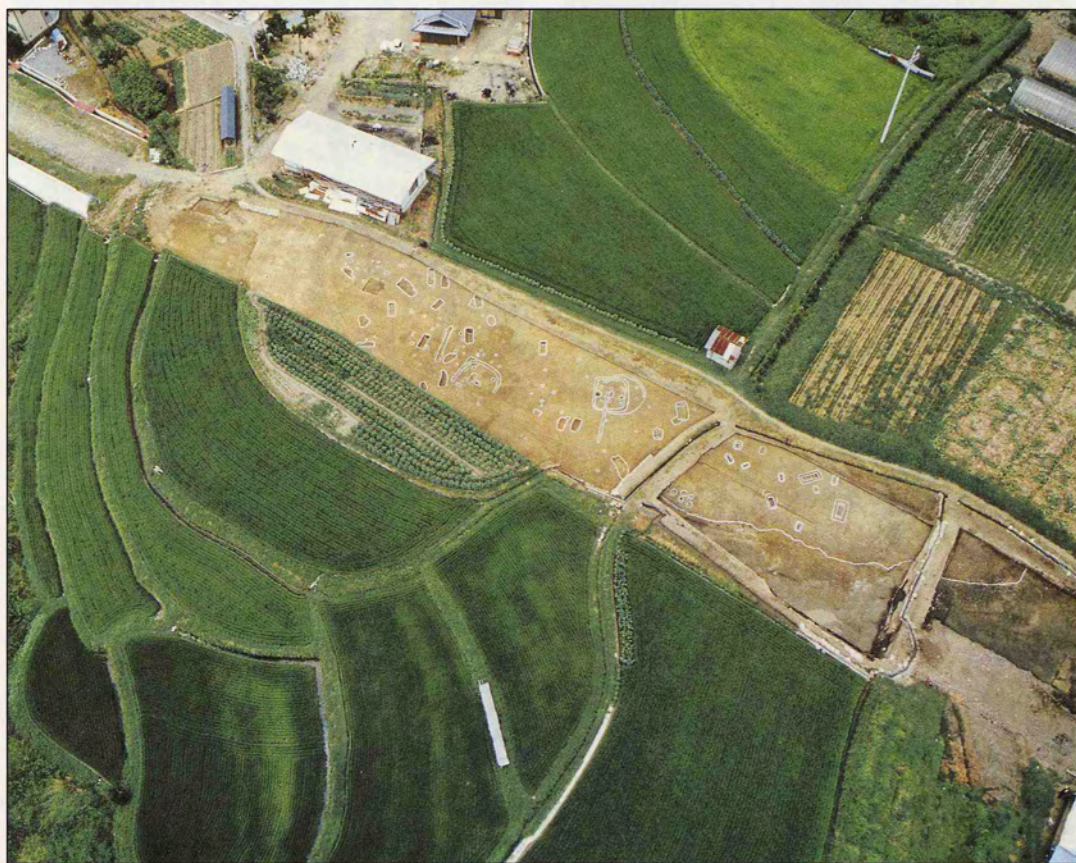
木棺墓を検出した佐用郡の弥生遺跡

——長尾・沖田遺跡（佐用郡佐用町長尾字沖田）——

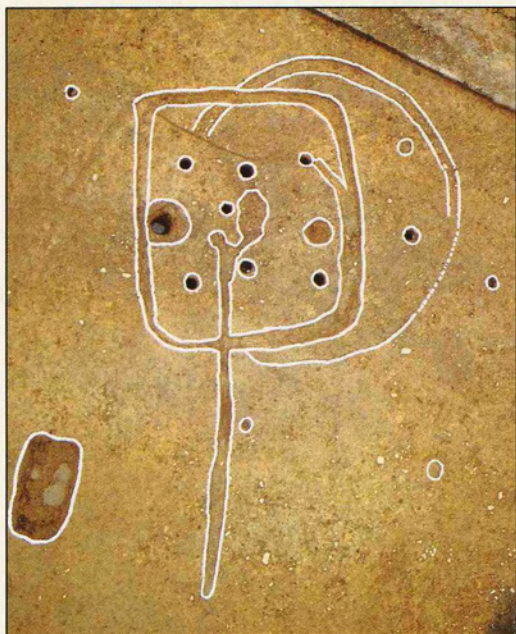
長尾・沖田遺跡は、県道下庄佐用線のバイパス建設に先立って実施した調査により発見された遺跡です。昭和57年度に確認調査が行われ、方形竪穴住居跡の一部を検出し、その中から有茎銅鏃1点が出土しました。その後、昭和58年・60年度に全面調査を行い、弥生時代中期～古墳時代初頭（約1900年～約1600年前）と、奈良時代～平安時代にかけての複合集落遺跡であることが判明しました。

遺跡のある佐用町長尾は、姫路市の西にある太子町から国道179号線を北西へ約40km行った播磨の内陸に位置します。

遺跡は千種川の支流、佐用川と江川川の合流点右岸、北西から南東へ向かって張り出す台地上に存在し、標高は約110mです。この地は『播磨国風土記』では「讃容郡讃容里」にあたり、土壌の質は「上の中」と記され、収穫量の多い豊かな土地であったと考えられます。



長尾・沖田遺跡 集落跡（弥生時代中期～古墳時代初頭）



竪穴住居跡（円形・方形）

弥生時代中期～古墳時代初頭の遺構は、いずれも調査地区南半部分の台地部に存在します。遺構は、竪穴住居跡・土壇・木棺墓・柱穴などがあります。

木棺墓は17基が確認され、その他に墓と考えられる土壇が6基あります。ほとんどの木棺墓は、地面に棺を納める長方形の穴（墓壇）を掘り、さらにその短辺に2本の溝を掘って木口板を立てる形式で、木口板の間に底板を置く組み合わせ式木棺が納められていたと考えられます。木棺墓の長軸は、北東～南西を向いており、一部これに直交するものもあります。木口穴をもたない土壇の中でも、これらの方向を向いているものは墓の可能性が大きいと思われます。木棺から、長さが1.7m前後の成人を埋葬したものと、0.5m前後の乳幼児を埋葬したものの2種類があります。副葬品をもった墓は2基あり、1基からはガラス小玉1点、他の1基からは碧玉製管玉2点^{（へきぎょく）}が出土しています。

竪穴住居跡は、平面の形から円形・隅円方形・方形の3種類に分けられ、各1棟ずつが分かりました。円形住居跡は直径約5mのもので、方形住居跡により壊され、ほとんど残っていません。隅円方形の住居跡は、4.8×4.8mで4本



木棺墓

柱のものです。中央に炉と土壇があります。方形住居跡は、4.1×3.6m、中央に炉、南辺の中央に土壇があります。また、屋内中央部から屋外へ向けて排水溝が掘ってあり、屋内の西側部分にベッド状遺構が見つっています。遺物は、方形住居跡から有茎銅鏃が1点出土しているのが注目されますが、そのほかは、弥生土器の細片が見つっているだけです。

木棺墓や住居跡のある台地の北側は小さな谷になっており、その最下層からは弥生時代中期の土器が出土しています。

この谷が埋没していく過程で、奈良～平安時代に道路と溝が作られています。道路は、調査区の中央を南北に走っており、台地部分では後世の削平のためなくなっています。上幅約2.5m、厚さ約40cm、調査区の最北端では、厚さ約10cmの整地層に瓦や礫が敷かれていました。この瓦の中には、長尾廃寺に使われていた軒丸瓦・軒平瓦が含まれています。南側の台地に近い部分では、人頭大の栗石が敷かれています。溝は、道路の西側を道路に沿って北から南へ流れ、台地の手前で東に方向を変え、道路と交差して谷の低い方へ流れています。幅約1.2m・深さ15cm^{（いぐし）}です。この溝の中からは土器のほかに、斎串や



道路と溝

木簡・荷札状の板片などが出土しています。また底部に「川邊」と書かれた墨書土器も出土しました。この道路と溝は、長尾廃寺の寺域の問題などとも関連して、古代の土地区画を考える上での貴重な資料と思われます。バイパスの建設予定地と道路・溝の延びていく方向がほぼ一致しているため、今後の調査でより詳しい事がわかってくると思われます。

〔用語解説〕

(1) 木棺墓 地面に棺を納める穴(墓坑)を掘り、その中に木製の棺を安置した墓。棺が石製の場合は石棺墓、棺を納めずに直接遺体を埋葬したものは土坑墓という。

(2) 風土記 和銅6(713)年の元明天皇の詔により作成された奈良時代の地誌。地名の由来

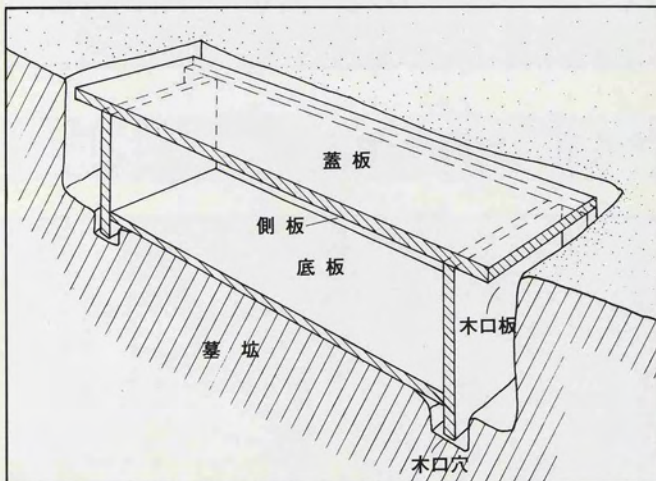


道路面出土軒丸瓦

・伝承・産物・土壌などについて記されている現存するものは、出雲・常陸・播磨・豊後・肥前の5カ国のもののみで、「出雲国風土記」だけが完存している。「播磨国風土記」は、巻首とそれに続くべき明石郡の記事を欠いており、賀古郡以下10郡の記事を伝えている。

(3) 木簡 木片に墨書したもの。伝達文書や帳簿として使われたものと、荷物に付けられた荷札などがある。長尾・沖田遺跡では、木簡は2点出土しており、昭和58年度出土のものは解文木簡であった。

解文とは、養老令に定められた公文書の一つで、下の官司から上の官司へ上申する場合に用いられた文書のこと。



木棺墓の仮称



原田西遺跡 木棺墓

播磨地方弥生時代木棺墓検出遺跡一覧表

No	遺 跡 名	所 在 地	数 量	時 期	備 考
1	長尾・沖田	佐用郡佐用町長尾	17 + α	中期～後期	
2	松原町	宍粟郡山崎町鹿沢	1	中期中葉	
3	福井池ノ下	相生市若狭野町福井	1 + α	中期後半	方形周溝墓主体部
4	川島	揖保郡太子町川島	2 + α	中期後半	
5	袋尻・浅谷	揖保郡揖保川町袋尻	13	中期後半	
6	八幡	姫路市船津町八幡	1	中期後半	方形周溝墓主体部
7	東溝	加古川市加古川町東溝	2	中期中葉	
8	穂積・高町	加東郡滝野町穂積	1	中期後半	
9	新方	神戸市西区玉津町新方	1 + α	中期前半	
10	今津	神戸市西区玉津町今津	1	中期中葉	
11	池上北	神戸市西区伊川谷町上脇	5	中期～後期	
12	西神第40号	神戸市西区平野町	4	中期後半	方形台状墓主体部
13	西神第47号	神戸市西区平野町	3	中期後半	
14	西神第59号	神戸市西区平野町	3	中期中葉	
15	常本	神戸市西区平野町常本	4	前 期	

播磨地方銅鏃出土遺跡一覧表 — 古墳出土を除く —

No	遺 跡 名	所 在 地	数 量	時 期	備 考
1	長尾・沖田	佐用郡佐用町長尾	1	古墳前期	住居跡内
2	宗行	佐用郡佐用町宗行	1	弥生後期～古墳前期	採集品
3	堂山	赤穂市大津堂山	1	弥生後期～古墳初頭	
4	長越	姫路市飯田長越	2	古墳前期	石製模造品と共伴
5	砂部	加古川市東神吉町砂部	2	古墳中期	石製模造品と共伴
6	新方	神戸市西区玉津町新方	1	弥生中期	住居跡内

播磨地方斎串出土遺跡一覧表

No	遺 跡 名	所 在 地	数 量	時 間	備 考
1	長尾・沖田	佐用郡佐用町長尾	5	奈良後半～平安	溝他
2	八反長	姫路市岡田八反長	○	奈良末～平安初頭	自然流路
3	辻井	姫路市辻井	○	奈良後半	自然流路
4	上原田	姫路市花田町上原田	○	奈良後半～平安初頭	井戸内
5	新方	神戸市西区玉津町新方	1	平安	
6	出合北山	神戸市西区玉津町出合	○	奈良後半	井戸内
7	吉田南	神戸市西区玉津町森友	○	奈良後半～平安初頭	

遺跡散歩

—佐用町長尾周辺の遺跡—

〈交通機関〉

国鉄姫新線佐用駅下車、北東へ約 2 km。

佐用郡の中心である佐用町は、国鉄姫路駅から北西へ46km、播磨・美作・因播の国境に位置する中国山地の山あいを開けた町です。歴史的・地理的に古くからの要所で、その中心地の北側に今回紹介します長尾・沖田遺跡があります。『播磨国風土記』に記載のみえる「讃容の里」おのなでやまにあたり、西方に大撫山（風土記・鹿庭山）がそびえたち、東には佐用の開拓神「贊用都比売命」をまつる佐用都比売神社が鎮座しています。

開発は弥生時代中期からと考えられ、長尾・沖田遺跡や本位田遺跡では竪穴住居跡が発見されています。これらの遺跡には、弥生後期から古墳時代初めに至る時期の遺構もあります。

古墳時代では、佐用川左岸に円応寺古墳群・横坂古墳群が存在します。円応寺古墳群は11基の円墳と1基の方墳からなり、とくに方墳は5世紀末のものと考えられ、この古墳群中最古のものであること、5号墳が仿製鏡・勾玉などを出土していることは注目されます。横坂1号墳は佐用郡内唯一の前方後円墳で、時期は6世紀初頭と考えられます。また、佐用都比売神社周辺には本位田群集墳があり、2号墳から単龍式環頭大刀がみつかっています。なお、吉福では町立福祉センター建設の際、古墳時代前期の集団墓が発見され、注目をあびましたが、残念ながら保存することはできませんでした。

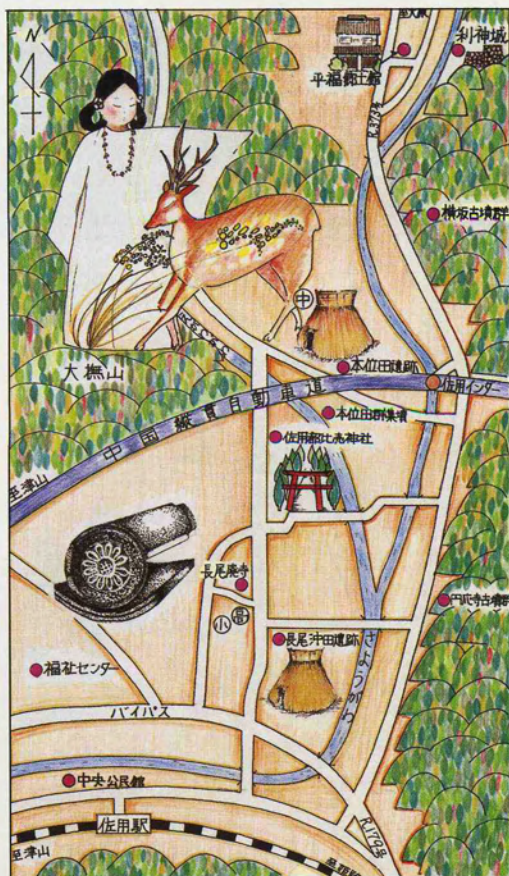


長尾廢寺塔心礎

奈良・平安時代の遺跡も随所にみられ、とくに佐用高校裏に塔心礎が残存する長尾廃寺は、地方寺院と古代豪族の関係を知る貴重なものです。このほか、時期は明らかではありませんが、大撫山を中心に多くのたたら（製鉄）遺跡が存在することも、当地の歴史を考える上で非常に大きな問題でしょう。

時間があれば、さらに北へ足をのぼし平福宿場町と利神城を見学されるのもよいでしょう。町中には、利神城に関する文献資料と、民俗資料を展示する町立郷土館があります。

秋の1日、黄金色の稲穂がなびく田園に、風土記の世界を散策されますのも有意義なことと思います。なお、佐用駅前中央公民館では、町内各時代の遺物が展示公開されています。



遺跡イラストマップ

展示会のお知らせ

当事務所では、下記の通り講演会・解説会・展示会を開催します。テーマは、「荘園・館・経塚」です。皆さま、お誘い合わせの上、当事務所へお立ち寄りください。（入館無料）

1. 期間 昭和60年10月12日(土)～昭和60年10月27日(日)
2. 場所 兵庫県埋蔵文化財調査事務所
神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5
〒652 ☎(078)531-7011

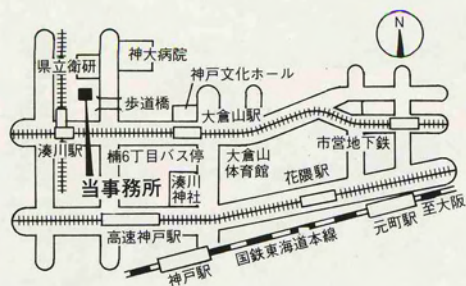


清 盛 塚

項 目	日 時	場 所	内 容
講 演 会	10月13日(日) 午後1時30分から	研修室	講師 岡山大学教授 石田善人 演題 「中世の都市と村」
	10月20日(日) 午後1時30分から	〃	講師 兵庫工業高校教諭 北垣總一郎 演題 「中世城郭」
	10月26日(土) 午後1時30分から	〃	講師 県立歴史博物館学芸員 小林基伸 演題 「莊園にみられる民衆と領主」
	10月27日(日) 午後1時30分から	〃	講師 奈良大学教授 水野正好 演題 「掘り出された人々の暮らし」
解 説 会	10月12日(土) 10月19日(土) 10月26日(土)	〃	「県下の発掘調査の概要」 本課職員及び市町職員
特別展示	10月11日(土) 10月27日(日)	特別収蔵室他	「莊園・館・経塚 一考古資料から見た中世の暮らし」 (県教育委員会調査の資料の展示)

■講演会・解説会への参加お申し込み方法（無料）

往復ハガキに、希望受講日・住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、直接当事務所へお申し込みください。なお、各講演会・解説会とも定員150名になりしだい、締め切らせていただきます。



● 交通利用

国鉄「神戸駅」下車徒歩12分
高速鉄道「高速神戸」下車徒歩10分
地下鉄「大倉山」下車徒歩5分
市バス「楠6丁目」下車徒歩3分

編集後記

朝夕の風にめっきり秋の気配を感じる今日このごろ、『ひょうごの遺跡』第7号の発刊です。今回は、長尾・沖田遺跡の調査概要速報をお届けします。

さて当事務所が神戸に移ってきてから、もう1年余りになります。昨年は開所を記念して、『兵庫の装飾太刀展』を開催しました。今年は『荘園・館・経塚』で兵庫の中世をテーマにしています。兵庫県の中世のくらしについて、当時の人々が使った道具や住居の跡を通して、考えていただけることと思います。皆さまのおこしを職員一同お待ちしております。